

# 三重県競技力向上対策本部

## 第4回競技力向上対策委員会



光る汗、光るハートに夢三重る

(三重県スポーツ推進スローガン)

平成27年3月19日(木)

プラザ洞津 紅葉の間



三重県競技力向上対策本部  
第4回競技力向上対策委員会 会議次第

平成27年3月19日(木)

プラザ洞津 紅葉の間

1 開 会

2 あいさつ

3 説明・報告事項

- (1) 三重県競技力向上対策本部 会議等開催経過について
- (2) 三重県競技力向上対策本部 第3回競技力向上対策委員会の概要について
- (3) 三重県競技力向上対策本部 専門委員会の概要について
- (4) 第69回国民体育大会の結果について
- (5) 平成26年度競技力向上対策事業 実施内容及び成果について

4 審議事項

平成27年度競技力向上対策事業について

5 協議事項

競技力向上に関する事業の効果的な実施について

6 閉 会



# 説明・報告事項



## 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会において、平成33年第76回国民体育大会の本県開催が内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
7月19日	第1回競技団体強化担当者会議を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
3月26日	第2回競技団体強化担当者会議を開催しました。
平成26年 4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催します。
3月23日	第3回競技団体強化担当者会議の開催予定。

三重県競技力向上対策本部  
第３回競技力向上対策委員会 協議事項の概要  
～ 競技力向上対策に向けた今後の取組について ～

平成２６年１０月１日

１ ジュニア・少年選手の育成・強化について

（１）ジュニア選手の発掘・育成・強化

- ・ジュニア選手発掘事業は、競技人口の確保に実績を上げており、今後も計画的に実施していく。
- ・ジュニア・少年選手の指導に、オリンピック選手を活用する。
- ・中学校に運動部がない競技など、ジュニアクラブを強化指定するなど支援を行う。

（２）中学校運動部の強化

- ・中学校運動部の強化指定数を拡充する。
- ・中学校体育連盟の各専門部の取組を支援する。

（３）高等学校運動部の強化

- ・高等学校運動部の強化指定数を拡充する。  
（指定ができていない専門部への対応や実情に応じた複数部指定の検討）
- ・強化指定運動部の強化費を拡充させる。
- ・強化指定運動部に外部指導者を配置する。
- ・国のエリートアカデミーの選手を強化活動に活用する。
- ・中学校の運動部との連携が進むよう支援する。

２ 成年選手の強化について

（１）就職支援の取組

- ・トップアスリートが就職相談できる専門的な組織（官民共同体）をつくる。
- ・競技種目や選手数、地域など、就職支援に係る具体的な案を検討するプロジェクトを立ち上げる。
- ・トップアスリートが国体終了後も競技を継続できるだけでなく、現役引退後のセカンドキャリアも配慮した、終身雇用の制度を確保してもらえるよう企業等へ働きかける。
- ・雇用の形態については、終身雇用、期間雇用など様々な考え方がある。
- ・トップアスリートの雇用については、大企業のみならず、中小企業や子会社へも働きかけていく。
- ・国のアスナビのような取組を行う。
- ・県（や市町）も率先して人材雇用を進めるよう働きかける。
- ・国民体育大会の獲得得点を考慮し、戦略的に雇用選手の競技を選定する。



- ・企業等のPRを含めメリットのある方策を検討する。
- ・指導者の雇用も進める。

#### (2) 大学運動部、企業・クラブチーム等の強化

- ・三重県出身のトップアスリートを強化指定し、選手個人への支援を行う。
- ・県内の大学運動部については、具体的にどの大学でどの競技を強化指定していくかを検討し、大学へ依頼する。

#### (3) 女性アスリートの強化

- ・成年女子の競技力が低迷していることから、女性アスリートの確保と育成・強化に取り組むための協議会等の設置について検討していく。

### 3 指導者の養成・確保について

#### (1) スポーツ指導員の確保

- ・スポーツ指導員は、国民体育大会で得点を獲得するだけでなく、ジュニア選手等の育成・強化にも、たいへん効果的な取組であり、スポーツ指導員数を拡充する。
- ・スポーツ指導員数を拡充するとともに、スポーツ指導員が県内の企業等へ就職できるよう斡旋していく。

#### (2) 教職員の確保

- ・教員採用試験において、トップアスリートが採用されやすい仕組みをつくる。
- ・国の「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」など、国の財源を活用し、県内の小学校体育活動を充実させるなどの取組について検討する。

## 第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会の概要

平成26年11月13日

## 1 ジュニア選手の発掘・育成・強化について

## (1) ジュニア選手発掘事業の取組

- ・実施競技における競技人口も増加傾向にあり、全国レベルの選手も育ててきている。
- ・中学校に運動部がないこと等も影響し、継続して取り組む選手が少ない。

## (2) 中学校に運動部がない競技等への取組

- ・今後、ジュニアクラブへの強化活動の支援が必要である。
- ・14歳～15歳を対象に、競技変更のきっかけを作るとよいのではないか。

## 2 中学校運動部の強化について

## (1) 中学校運動部強化指定事業の取組

- ・積極的な県外練習の取組により、技術面・精神面でのレベルアップができた。
- ・県内に留まらず、全国大会で勝つための指導者の意識醸成が必要である。

## (2) 中学校体育連盟各専門部の取組の支援

- ・インターハイ強化事業として、県教委予算で各競技の合同練習会や指導者講習会を実施し、県内トップ選手や指導者の意識醸成が図れた。

## 3 高等学校運動部の強化について

## (1) 高等学校運動部強化指定事業の取組

- ・強化指定運動部から雰囲気をつくり、専門部として強化の意識を高められた。
- ・強化費の支援により、積極的な県外練習等の質の高い取組が必要である。また、互いの競技専門部で取組の内容等を情報共有することが必要である。

## (2) 中学校運動部との連携の取組

- ・中学校選抜チームの指導に高等学校の指導者が加わり、中高のコミュニケーションを図れる取組ができた。
- ・高等学校運動部の指導者の配置を安定させ、中学生が進学しやすい体制づくりが必要である。

## 4 その他

## ＜強化体制に関わって＞

- ・競技団体における強化を支える構造として、「組織マネジメント」「選手の育成・強化」「指導者の養成」「環境の整備」の4つの仕組みができてきているかを取り上げ、強みや弱みが見えてくる。
- ・今後の視点は潜在的な能力を上げる取組が必要であり、タレントとして仕掛けていく事業の推進が必要である。

## ＜女性アスリートに関わって＞

- ・今後、女性に視点をあてて強化を進め、女性の悩みが相談できる環境をつくっていく必要がある。
- ・高等学校で運動部活動をやめるケースが多く、大学まで続ける選手が少ない。各競技団体でも、女子選手への対応を考えていく必要がある。

## 第2回成年選手強化専門委員会の概要

平成26年11月19日

### 1 団体競技の強化について

- ・費用対効果に着目し、競技力向上対策事業の実施方法や内容を見直す。
- ・競技団体の取組が国民体育大会を優先するよう、対策本部として競技団体の状況を把握するとともに、意識醸成に努める。
- ・大学運動部の育成指定を拡充していく。
- ・競技団体と連携し、選手の活動や国民体育大会に向けた取組に対する理解が進むよう、企業等への働きかけを行う。
- ・獲得得点が0点の競技に対しては、課題を明らかにするとともに、今後の具体的な対策を講じていく。
- ・競技団体へのヒアリングの内容を一本化し、競技団体が抱える課題等を検証する。

### 2 毎年安定した競技力の確保について

- ・成年選手の確保については、少ない選手の確保で得点を獲得できる団体競技から取組を始める。
- ・競技特性や選手のピークパフォーマンスを発揮する時期等も考慮して成年選手の確保に努める。
- ・スポーツ指導員配置事業は、獲得得点に直結することから、選手のデータを詳細に収集し、取組を進める。
- ・東海ブロック大会のレベルの高さや通過数等を分析し、通過する可能性の高い競技や本国体にストレートで出場できる競技を戦略的に強化する。
- ・プロ選手の出場が可能な競技においては、プロ選手の活用も検討していく。

### 3 女子選手の育成・強化について

- ・女子選手を対象とした発掘・育成・強化についての取組を始める。
- ・ジュニア選手の県外流出が問題であり、中学校・高等学校の受け皿の整備を行う。
- ・成年選手確保のために、選手の動向等早い段階から情報を収集しておく。

## 第2回企業等連絡調整専門委員会の概要

平成26年11月19日

### 1 企業側へのアプローチについて

- ・平成33年に本県で開催する国民体育大会に対して、県民の意識醸成に努めるとともに、企業等に雇用の必要性を伝えていく。
- ・本県の大手企業の多くは本社採用の形をとっていることが多いこともあり、トップ選手採用の依頼を行う際には、本社とも調整を図る必要があるため、計画的に取組を進める。
- ・トップ選手を企業等が採用することで得られるメリットについて、企業等に伝えていく。
- ・トップ選手を採用した企業等に対し、メリットを生み出すような仕組みについて考える。
- ・先催県が取り組んでいるトップ選手の採用に係る取組事例を調査し、その事例を企業等に説明をしたうえで、採用の依頼を行う。
- ・トップ選手の採用依頼を企業に行う際には、各商工団体が行う会議において、企業等への情報提供を積極的に行う。

### 2 選手・チームへのアプローチについて

- ・いつ、選手としてのピークパフォーマンスを迎えるか等、各競技における特性を事務局が分析したうえで、計画的に選手の採用を進める。
- ・日々の強化活動を円滑に進めるためには、採用する企業等は、なるべく選手が活動する地域の近くの企業等とする等、地域性を考慮した採用を行う。
- ・企業チームでは専任のスカウトを配置して全国からトップ選手の情報を収集し、採用を進めているチームが存在する。対策本部としても効果的にトップ選手を採用できるように対策を講じる。
- ・トップ選手を採用するためには、強豪大学等と繋がりを日常的に作っておく。

# 第69回国民体育大会総合成績

説明・報告事項(4)-1

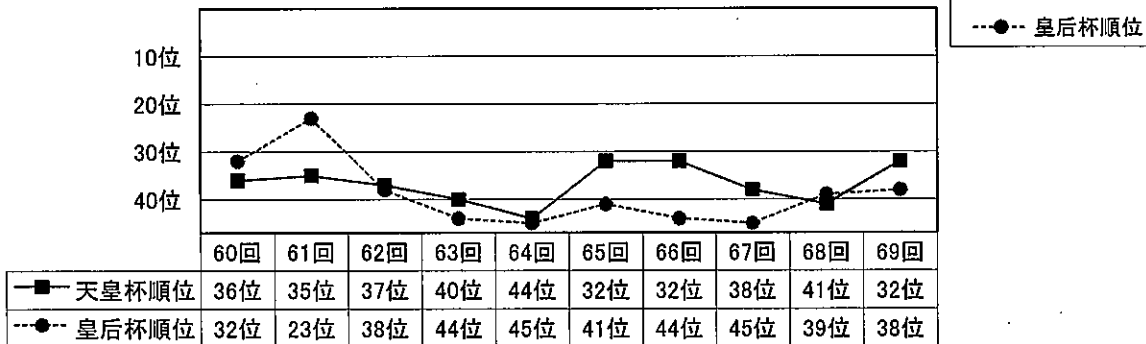
男女総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	テニス	42.0	10.0	52.0
2	山岳	63.0	10.0	73.0
5	レスリング	39.5	10.0	49.5
5	ウエイトリフティング	61.0	10.0	71.0
6	ソフトテニス	35.0	10.0	45.0
8	ハンドボール	35.0	10.0	45.0
12	自転車競技	15.0	10.0	25.0
13	ボウリング	24.0	10.0	34.0
15	体操	15.0	10.0	25.0
16	陸上競技	45.0	10.0	55.0
22	水泳	28.5	10.0	38.5
23	馬術	14.0	10.0	24.0
27	ボート	6.0	10.0	16.0
28	弓道	9.0	10.0	19.0
38	ライフル射撃	2.0	10.0	12.0
小計	15競技	434.0	150.0	584.0
	他 25競技		250.0	250.0
	40競技	434.0	400.0	834.0

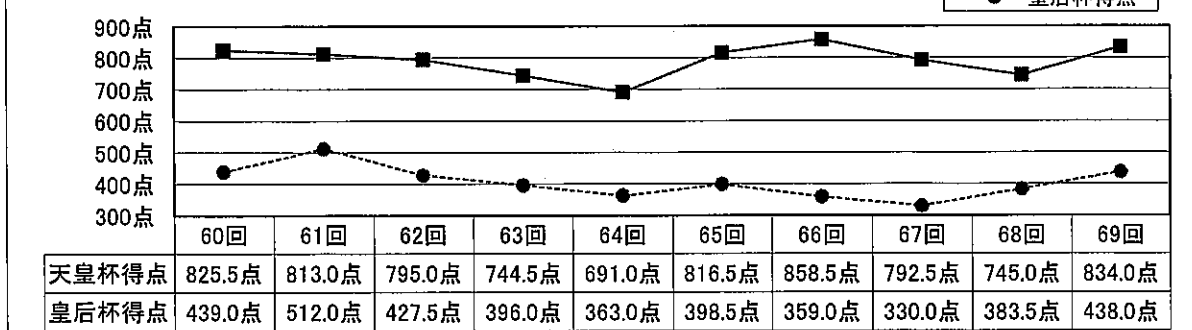
女子総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
2	山岳	45.0	10.0	55.0
4	ハンドボール	35.0	10.0	45.0
4	ソフトテニス	35.0	10.0	45.0
10	ボウリング	24.0	10.0	34.0
14	馬術	6.0	10.0	16.0
28	陸上競技	10.0	10.0	20.0
32	水泳	3.0	10.0	13.0
小計	7競技	158.0	70.0	228.0
	他 21競技		210.0	210.0
	28競技	158.0	280.0	438.0

国民体育大会過去10年間の成績(順位)推移



国民体育大会過去10年間の成績(得点)推移



第69回国民体育大会三重県選手団入賞一覧表

説明・報告事項(4)-2

団体種目

順位	成 年 の 部		得点	少 年 の 部		得点
1				テニス 山(リニアード)	少年男子(四日市工業高校)	24
				ボウリング	少年女子(全三重)	24
					少年女子(全三重)	24
2				ハンドボール	少年女子(全三重)	35
				ソフトテニス	少年女子(三重高校)	35
				山(ボルダリング)	少年女子(全三重)	21
3	テニス 山	成年男子(全三重)	18			
	(ボルダリング)	成年男子(全三重)	18			
6	体操	成年男子(相好体操クラブ)	15	弓(近的)	少年男子(全三重)	9

個人種目

順位	競技名	種別	種目	氏名	所属 <ふるさと登録>	得点
1	レスリング	成年男子	71スタイル57kg級	高橋 侑希	山梨学院大学 《いなべ総合学園高校》	4.5
	レスリング	成年男子	71スタイル74kg級	松尾 侑亮	山梨学院大学 《いなべ総合学園高校》	4.5
	レスリング	少年男子	71スタイル55kg級	藤田 雄大	いなべ総合学園高校	8
	レスリング	少年男子	71スタイル66kg級	藤波 勇飛	いなべ総合学園高校	8
	ウエイトリフティング	成年男子	62kg級スナッチ	坂 典泰	四日市工業高校	8
	ウエイトリフティング	成年男子	62kg級ジャーク	坂 典泰	四日市工業高校	8
	ウエイトリフティング	少年男子	62kg級スナッチ	伊丹玲於奈	四日市工業高校	8
	ウエイトリフティング	少年男子	62kg級ジャーク	伊丹玲於奈	四日市工業高校	8
2	ウエイトリフティング	少年男子	77kg級スナッチ	柳川 友章	危山高校	8
	陸上競技	少年男子A	走高跳	野村 智也	宇治山田商業高校	7
	陸上競技	少年女子A	ハンマー投	留岡 野絵	宇治山田高校	7
	水泳(競泳)	少年男子B	100mバタフライ	阪本 祐也	大宮中学校	7
	水泳(飛込)	成年男子	高飛込	村上 和基	三重県体育協会	7
3	レスリング	少年男子	71スタイル50kg級	山北 漢人	いなべ総合学園高校	7
	陸上競技	成年男子	走高跳	衛藤 昂	筑波大学 《鈴鹿市立白子中学校》	6
	陸上競技	少年男子A	400m	直江 航平	宇治山田商業高校	6
	ウエイトリフティング	少年男子	105kg超級スナッチ	川村 正輝	四日市工業高校	6
	ウエイトリフティング	少年男子	105kg超級ジャーク	川村 正輝	四日市工業高校	6
	自転車	成年男子	4km速度競走	高士 拓也	中央大学 《朝明高校》	6
	馬術	成年女子	ダービー	中村 洋子	北勢ライディングファーム	6
4	ボート	成年男子	シングルスカル	清水 大輔	中部電力(株) 《津高校》	6
	水泳(飛込)	成年男子	飛板飛込	村上 和基	三重県体育協会	5
	ウエイトリフティング	少年男子	77kg級ジャーク	柳川 友章	危山高校	5
	自転車	少年男子	1kmタイムトライアル	伊藤 稔真	朝明高校	5
5	馬術	成年男子	トップスコア	中村 勇	北勢ライディングファーム	5
	陸上競技	成年男子	400m	愛敬 彰太郎	早稲田大学 《桑名高校》	4
	陸上競技	少年男子A	ハンマー投	東浦 貴太	宇治山田商業高校	4
	水泳(競泳)	少年男子A	400m自由形	小林 祐馬	海星高校	4
	レスリング	成年男子	グレコ-romanスタイル71kg級	濱口 祐志	九州共立大学 《真珠高校》	2.5
	レスリング	成年男子	グレコ-romanスタイル130kg級	河野 隆太	鈴鹿国際大学	2.5
6	レスリング	少年男子	グレコ-romanスタイル96kg級	加藤 穂高	朝明高校	2.5
	陸上競技	少年男子	三段跳	野村 智也	宇治山田商業高校	3
	水泳(競泳)	成年男子	100m平泳ぎ	金谷 颯気	中央大学 《四日市西高校》	2.5
	水泳(競泳)	成年女子	100m自由形	田尾 優里香	日本体育大学 《津田学園高校》	3
	ウエイトリフティング	成年男子	85kg級ジャーク	山門 正宜	名古屋産業大学 《豊月市中央工業高校》	3
	自転車	成年男子	ケイリン	松本 諒太	三重大学	3
7	馬術	成年男子	国体総合馬術	中村 勇	北勢ライディングファーム	3
	陸上競技	少年男子A	5000m	下 史典	伊賀白鳳高校	2
	陸上競技	少年男子B	3000m	塩澤 穂夕	伊賀白鳳高校	2
	陸上競技	少年女子	棒高跳	中林 麻奈	相可高校	2
8	ライフル射撃	成年男子	CP30M	澤 幸照	津警察署	2
	陸上競技	少年男子共通	走高跳	加藤 健太郎	鈴鹿工業高等専門学校	1
	陸上競技	成年女子	400m	大月 菜穂子	京都教育大学 《桑名高校》	1
	ウエイトリフティング	成年男子	94kg級ジャーク	太田 悠斗	九州国際大学 《四日市工業高校》	1
自転車	少年男子	スプリント	下岡 将也	朝明高校	1	

計 434

国民体育大会における天皇杯順位・入賞数・競技得点の推移

【総合順位】

	65回	66回	67回	68回	69回
天皇杯(男女総合成績)	32	32	38	41	32
皇后杯(女子総合成績)	41	44	45	39	38

【入賞数】

		65回	66回	67回	68回	69回
団体	成年男子	7	10	6	6	3
	成年女子	1	0	2	1	0
	少年男子	2	4	3	4	2
	少年女子	3	3	2	3	5
	小計	13	17	13	14	10
個人	成年男子	13	15	11	14	19
	成年女子	4	3	3	4	3
	少年男子	13	23	22	15	21
	少年女子	5	4	0	4	2
	小計	35	45	36	37	45
計	成年男子	20	25	17	20	22
	成年女子	5	3	5	5	3
	少年男子	15	27	25	19	23
	少年女子	8	7	2	7	7
計		48	62	49	51	55

【競技得点】

		65回	66回	67回	68回	69回
団体	成年男子	155.5	157.0	140.0	59.5	51.0
	成年女子	40.0	0.0	15.0	3.0	0.0
	少年男子	36.0	84.0	45.0	47.0	33.0
	少年女子	54.0	50.5	25.0	65.0	139.0
	小計	285.5	291.5	225.0	174.5	223.0
個人	成年男子	50.0	41.0	58.0	66.5	83.5
	成年女子	12.5	14.0	10.0	20.0	10.0
	少年男子	56.5	107.5	109.5	78.5	108.5
	少年女子	22.0	14.5	0.0	15.5	9.0
	小計	141.0	177.0	177.5	180.5	211.0
計	成年男子	205.5	198	198	126	135
	成年女子	52.5	14	25	23	10
	少年男子	92.5	191.5	154.5	125.5	141.5
	少年女子	76	65	25	80.5	148
計(参加点除く)		426.5	468.5	402.5	355.0	434.0
参加点含む総計		816.5	858.5	792.5	745.0	834.0

平成26年度競技力向上対策事業実施内容及び成果

事業名	対象	取組内容	取組の成果
① ジュニア選手発掘事業	ジュニア・少年選手	ウエイトリフティング、水球、飛込、なぎなた、ボート、ヨットの6競技団体において、スポーツ体験会、育成プログラム、教育プログラムを実施し新たなジュニア選手を発掘。	体験会353名、育成プログラム85名、教育プログラム83名が参加し、28名が活動を継続。
② チームみえジュニア育成事業		各競技団体が行う将来有望なジュニア選手の育成活動を支援。(35競技団体)	将来有望な選手を「チームみえジュニア」として強化を行い、強化活動を支援。
③ チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業		将来活躍が期待できるジュニアアスリート536名を「チームみえジュニア」として指定し、知事より指定証を交付。選手や指導者・保護者への研修会を実施。	7月に指定証を交付し、研修を実施。将来有望なジュニア選手及び保護者、指導者が一堂に介し、意識が向上。
④ 中学校運動部強化指定事業		4校4部を強化指定し、合宿や遠征等の強化活動を支援。	全国中学校体育大会において11件入賞、強化指定した2部が入賞。
⑤ 高等学校運動部強化指定事業		26校54部を強化指定し、合宿や遠征等の強化活動を支援。	全国高校総体において、昨年度より1.5倍の50件の入賞。
⑥ 高校生トップアスリート研修事業		全国大会等で活躍した選手に、日本のトップアスリートを目指すうえで必要な資質向上のための研修会を実施。	現高校生アスリートで、将来も県内外で活躍する選手に対して、「チームみえ」の選手としての意識を醸成。
⑦ トップジュニア育成事業		世界大会等で活躍するジュニア選手12名を「チームみえスーパージュニア」として指定し、強化活動を支援。	国内外の大会出場や遠征等の支援。
⑧ チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通	長崎国体では、天皇杯順位20位台を目標として、入賞の可能性のある競技種別を指定し、その強化活動を支援。	長崎国体では、55件入賞し、天皇杯順位は32位。(東京国体では、入賞51件、天皇杯順位41位)
⑨ トップ選手強化事業		競技団体が行う年間を通じた強化活動を支援。	国体を中心に年間を通じた計画的な強化活動を支援。
⑩ 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	2クラブチーム、5企業チームを強化指定、1大学運動部を育成指定、1クラブチームを結成指定し、強化活動等を支援。	デンソー女子陸上長距離部が駅伝で全国優勝、相好体操クラブが国体で入賞。
⑪ スポーツ指導員配置事業		ジュニア選手の育成・強化及び指導者の資質向上を図るため、国内トップアスリートを指導者として配置。(1名：飛込)	長崎国体において高飛込2位、飛板飛込4位の入賞。年間を通じたジュニア選手の指導。
⑫ チームみえ指導者研修事業	指導者	国民体育大会等で指導する監督、コーチ、スタッフ等を一堂に介して研修会を予定。	国民体育大会の監督、スタッフの意識が醸成。
⑬ 強化指定運動部指導者研修事業		中学校、高等学校の強化指定運動部の指導者を対象に、年3回の研修会を実施。(8月に実施。11月、1月に予定)	研修をテーマを一貫させて、年間を通じた研修。
⑭ 公認スポーツ指導者養成事業		公認スポーツ指導者資格の取得を促進するための支援。	各競技団体の推薦により20名が資格取得。
⑮ 特別コーチ派遣事業		オリンピック選手や優れた指導者を競技団体の強化活動に派遣。(ソフトボール、バドミントン、なぎなた、ウエイトリフティング、水泳)	ウエイトリフティング、水泳(競泳)において国体で入賞。
⑯ 環境整備補助事業	競技団体等	競技団体の競技力向上に係る備品を整備。(10競技団体)	陸上、水泳(飛込)、馬術、ライフル射撃、ウエイトリフティング、ボート競技において国体入賞。
⑰ 医・科学サポート事業		競技団体の強化練習や国体等に帯同する医・科学スタッフの活用を支援。(6競技団体)	コンディショニングへの意識醸成が図られ、長崎国体にも帯同し、テニス少年男子やハンドボール少年女子で入賞。
⑱ みえのアスリート応援・発信事業		広報誌「輝くみえのアスリートNEWS」の発行。(7月：56,000部、12月56,000部発行)	「チームみえ」の選手の活躍や、トップジュニア寄附金について多くの県民に広報。



# 審議事項



平成27年度競技力向上対策事業(案)

審議事項	事業名	対象	備考
①	ジュニア選手発掘事業	ジュニア・少年選手	
②	チームみえジュニア育成事業		
③	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業		
④	ジュニアクラブ強化指定事業		H27新規
⑤	中学校運動部強化指定事業		
⑥	中学生H30インターハイ強化事業		H27新規
⑦	高等学校運動部強化指定事業		
⑧	高校生H30インターハイ強化事業		H27新規
⑨	高校生トップアスリート研修事業		
⑩	トップジュニア育成事業		
⑪	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通	
⑫	トップ選手強化事業		
⑬	女性アスリートサポート事業		H27新規
⑭	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	
⑮	スポーツ指導員配置事業		
⑯	トップアスリート就職支援事業		H27新規
⑰	チームみえ指導者研修事業	指導者	
⑱	強化指定運動部、チーム指導者研修事業		
⑲	公認スポーツ指導者養成事業		
⑳	特別コーチ派遣事業		
㉑	環境整備補助事業	環境整備	
㉒	医・科学サポート事業		
㉓	みえのアスリート応援・発信事業		

ジュニア選手発掘事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【4,205千円】

## 1 目的

競技を経験したことのない小・中学生を対象として、競技体験や育成プログラム等を実施することで、新たなジュニア選手を獲得する。

## 2 実施競技団体

国民体育大会正式競技のうち、6競技団体程度とする。

### (1) 継続実施競技（3競技団体）

水球、飛込、ボート

### (2) 新規実施競技（3競技団体程度）

各競技団体に対し実施希望調査を行い、ヒアリングのうえ4月上旬に決定する。

## 3 実施内容

- (1) 小中学生のうち、事業を実施する競技の未経験者を対象として体験会の参加者を公募する。体験会の開催後は、引き続き選手をめざすための育成プログラムに参加を促しトップアスリートをめざすジュニア選手を発掘する。
- (2) 育成プログラムは、競技練習会として年間10回程度開催し、競技者として育成を図る。参加者は、原則10回すべてに参加する。
- (3) 各競技団体は、JOCが進めている中央競技団体による「競技者育成プログラム」を参考に、年間の指導を行う。
- (4) 事業を実施する競技団体は「スポーツ教育プログラム研修会」にジュニア選手、保護者とともに参加し、技術、技能以外に、競技者として必要な知識の習得や保護者サポートについて研修する。
- (5) 実施競技団体は、育成プログラム終了後のジュニア選手育成のため、競技を継続できる環境をジュニア選手に提供する。

## 4 年間計画

5～6月	体験会の広報
7～8月	体験会の実施
9～2月	育成プログラムの実施
11～2月	スポーツ教育プログラム（競技継続のサポート）の実施

チームみえジュニア育成事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【22,202千円】

1 目的

将来有望なジュニア選手（小・中学生）をチームみえジュニアとして育成し、その強化活動を支援し、長期的な競技力の向上を図る。

2 対象

県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

（1）各競技団体が取り組む、将来有望なジュニア選手の育成活動（チームみえジュニア）を支援する。各競技団体の活動規模、競技レベルに応じた配分を行う。

（2）配分の方法

① 予算のうち、活動実績に応じて配分される基礎配分と競技実績に応じて配分される競技力配分を約8：2として配分する。

基礎配分：平成26年度活動実績人数を10段階に評価したものを係数とし、単価を乗じた積算により配分する。

競技力配分：平成26年度全国高校総体、全国中学校体育大会（実施がない場合は同等の大会）での実績を国民体育大会の競技得点として評価し係数として、単価を乗じて配分する。

各配分の集計結果が前年度実績と比べて著しく変動する団体については、一定の活動量を保障するため、所要の調整を行う。

② 各競技の配分の調整については、各競技団体の強化拠点における育成活動の実績、平成26年度中学校・高等学校の全国大会の実績、「みえの競技力2015」、必要に応じたヒアリング等により行う。

③ 競技団体への配分については、対策本部と協議のうえ、委託事業者において行う。

（3）各競技団体に対する配分額等の決定後、委託事業者及び対策本部と連携して競技団体への通知及び活動に対する助言を行う。

（4）支援対象は、ジュニア選手育成・強化のための練習に係る経費（旅費、報償費、会場使用料、消耗品費等）とする。

チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【1,456千円】

1 目的

全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手（小・中学生）を「チームみえジュニア」として指定し、ジュニア選手の意識醸成を図るとともに、競技団体、指導者、保護者が一体となって、ジュニア選手の育成・強化を図ることを目的とする。

2 対象

県内競技団体からの推薦を受け、全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手とその指導者・保護者とする。

3 実施内容

(1) 指定証の交付

指定するジュニア選手に対し、対策本部長（知事）から、「チームみえジュニア指定証」を交付する。

(2) 研修プログラム

① 全体会

・「チームみえジュニア」としての意識醸成を目的とした研修。

② 研修会

〔ジュニア選手・保護者対象〕

・選手間の交流を図るとともに、本県を代表する選手としての自覚を促すプログラムを実施する。

〔指導者対象〕

・競技の枠を越えて交流し、ジュニア選手のサポート体制の充実を図るプログラムを実施する。

4 年間計画

6～7月 「チームみえジュニア指定証」交付式、研修会の開催

ジュニアクラブ強化指定事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【450千円】

1 目的

将来有望な中学生選手を育成している、各地域のジュニアクラブを指定し、その強化活動を支援することで、長期的な競技力の向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技及び平成28年度に新たに正式競技となる競技の県内のジュニアクラブとする。

3 指定期間

指定日から平成28年3月までの単年度指定とする。

4 選定方法

対策本部は、競技団体から平成27年度に全国大会で活躍が期待できる中学生選手の育成を行っているジュニアクラブの推薦を受け選考し指定を行う。

※ 推薦を受けたジュニアクラブにおいても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないと認められる場合は、指定を行わないこともある。

5 補助対象

強化指定ジュニアクラブに対しては、全国大会での活躍を目的とした中学生選手の強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

6 年間計画

4月	強化指定クラブ選定、指定決定
5～3月	強化活動支援

## ジュニアクラブ強化指定推薦要領（案）

各競技団体は本推薦要領に基づき、三重県競技力向上対策本部に強化指定ジュニアクラブを推薦することとする。

## 1 推薦できるジュニアクラブの範囲

県内で定期的に活動し、中学生選手が所属しているクラブのうち、平成27年度に全国大会で入賞するなどの期待ができるクラブ等とする。

- ・各競技団体が中学生選手を育成しているジュニアクラブとしてその活動を認めているクラブに限る。
- ・複数の拠点（教室・道場・支部等）で活動しているクラブでも、推薦が行えるのは各拠点別とする。

## 2 推薦基準及び手順

競技団体は、次の基準により、平成27年度の全国大会等において、中学生選手の活躍が期待できるジュニアクラブを、推薦することとする。

また、平成27年度については、県中学校体育連盟に加盟していない競技を優先的に指定する。

- ・中学生選手が5名以上所属しており、過去3年間の全国大会において複数年度にわたり入賞の実績があるクラブ（個人種目のみの実績の場合は複数名であること）について、最も平成27年度に活躍が期待できる1クラブを推薦することとする。

※所属選手、入賞選手の性別は男女を問わない。

※全国大会とは、中央競技団体が主催する大会とする。



中学校運動部強化指定事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【3,000千円】

1 目的

全国大会で活躍が期待できる中学校運動部を強化指定し、強化活動の支援を行い中学生選手の重点的な競技力向上を図る。また、高等学校運動部との連携を促し、ジュニア・少年選手の強化を行う。

2 対象

県中学校体育連盟加盟の競技専門部に所属する中学校運動部を対象とする。

3 指定期間

平成27年4月から平成28年3月までの単年度指定とする。

4 選定方法

対策本部は、県中学校体育連盟からの推薦を受けた強化指定候補運動部について、県教育委員会及び県中学校体育連盟と協議をしたうえで選考し、指定を行う。

なお、県中学校体育連盟は競技専門部と協議のうえ推薦することとする。

※ 県中学校体育連盟は別途定める推薦要領により競技専門部と協議のうえ推薦することができる。

※ 推薦を受けた強化指定候補運動部においても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないと思われる場合は、指定を行わないこともある。

※ 県中学校体育連盟から推薦を受けた以外に全国大会において活躍が期待できる運動部がある場合は、県教育委員会、県中学校体育連盟と協議のうえ指定することができる。

5 補助対象

強化指定運動部に対しては、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

中学校運動部強化指定事業  
強化指定候補運動部推薦要領（案）

1 強化指定運動部の対象

国民体育大会の正式競技であり、県中学校体育連盟加盟の競技専門部（以下、競技専門部とする）に所属する中学校運動部。

2 推薦基準

平成27年度の全国大会において、各競技専門部において最も活躍が期待できる中学校運動部。

3 推薦方法

(1) 各競技専門部は、推薦基準に基づき、強化指定候補運動部を実態に応じて、男女いずれか1部または男女部1部を県中学校体育連盟に推薦することができる。

(2) 推薦にあたり、競技専門部は、競技団体をはじめ、該当学校長とも協議を行うものとする。

4 その他

推薦を受けた強化指定候補運動部においても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないと認められる場合は、指定を行わないこともある。

## 平成27年度 中学校強化指定運動部(案)

競技名	男子	女子部
バレーボール	松阪市立久保中学校	-
卓 球	津市立橋南中学校	-
柔 道	津市立久居中学校	-
バスケットボール	-	四日市市立朝明中学校
サッカー	-	-
ハンドボール	菰野町立菰野中学校	
ソフトボール	-	度会町立度会中学校
軟式野球	玉城町立玉城中学校	-
ソフトテニス	-	熊野市立有馬中学校
剣 道	桑名市立陵成中学校	-
体操競技	-	-
新 体 操	-	-
バドミントン	-	伊勢市立小俣中学校
相 撲	志摩市立磯部中学校	-
水泳競技	-	紀北町立潮南中学校
テ ニ ス	桑名市立明正中学校	-
陸上競技	多気町松阪市学校組合立多気中学校	

14校14部

中学生H30インターハイ強化事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【4,400千円】

1 目的

平成30年度全国高等学校総合体育大会に向け、本県の高等学校運動部の活躍につながる中学校運動部の強化を目的とし、県内トップレベルの中学校運動部の強化を図る。

2 対象

平成30年度全国高等学校総合体育大会の実施競技である県中学校体育連盟所属の競技専門部

3 事業内容

中学校合同強化練習会（11競技専門部程度）

各中体連競技専門部の指導者及び県内ベスト4レベルのチーム等を対象として、強化練習会を開催する。

強化練習会には、全国トップレベルのチーム及び指導者を招へいすることができる。

4 補助対象

講師報償費、トップチーム旅費、参加指導者旅費、会場使用料、消耗品費とする。

5 その他

実施する競技専門部の決定については、委託事業者が三重県競技力向上対策本部と協議のうえ選定・実施を行う。

## 高等学校運動部強化指定事業 実施方針（案） （委託事業）

平成27年度当初予算【22,001千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成・強化を目指すため、全国大会で活躍が期待できる高等学校運動部を指定し、合宿・遠征等の強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、県高等学校体育連盟加盟の競技専門部（以下、競技専門部とする）、または県体育協会加盟の競技団体に所属する高等学校運動部
- (2) 平成28年の国民体育大会で新たに正式競技となる高等学校運動部
- (3) 県高等学校野球連盟に所属する高等学校硬式野球部

### 3 指定期間

指定は原則、次の期間とし、必要に応じて見直しを図る。ただし、継続して指定することも可能とする。なお、硬式野球競技については、単年度の指定とする。

- ・第1期：平成26年～平成27年（基盤・体制づくり期）
- ・第2期：平成28年～平成30年（育成期）
- ・第3期：平成31年～平成33年（躍進期）

※各期は、三重県競技力向上対策基本方針に定める推進計画期間とする。

### 4 選定方法

三重県競技力向上対策本部は、県高等学校体育連盟からの推薦を受けた強化指定候補運動部について、県教育委員会及び県高等学校体育連盟と協議をしたうえで下記のとおり選考する。なお、硬式野球競技においては平成27年度に活躍が期待できる高等学校硬式野球部を県高等学校野球連盟より1部推薦を受け、「高等学校硬式野球特別指定運動部」として指定を行う。

- (1) 強化指定候補運動部について、過去3年間の競技成績に応じて、A・B指定を行う。
  - ・A強化指定運動部：全国大会において、入賞を狙えるレベルにある運動部
  - ・B強化指定運動部：全国大会において、将来的に活躍が期待できる運動部
- (2) 競技専門部から推薦を受けた以外に全国大会における競技実績が顕著な高等学校運動部がある場合は、競技専門部及び競技団体と協議を行ったうえで、三重県競技力向上対策本部が指定することができる。
- (3) 推薦を受けた強化指定候補運動部においても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないと認められる場合は、指定を行わないこともある。
- (4) 県高等学校体育連盟に加盟していない場合でも、国民体育大会の正式種目であり、県体育協会加盟の競技団体であれば、競技団体からの推薦を受け、上記同様、強化指定運動部の選考及び指定を行う。

### 5 補助対象

強化指定運動部に対しては、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一環として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

## 高等学校運動部強化指定事業 強化指定候補運動部推薦要領（案）

### 1 強化指定運動部の対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、県高等学校体育連盟加盟の競技専門部（以下、競技専門部とする）、または県体育協会加盟の競技団体に所属する高等学校運動部
- (2) 平成28年の国民体育大会で新たに正式競技となる高等学校運動部
- (3) 県高等学校野球連盟に所属する高等学校硬式野球部

### 2 推薦基準

平成33年に本県で開催する国民体育大会において、少年種別における強化の中心となることが期待される高等学校運動部とすること。

### 3 推薦方法

県高等学校体育連盟は、平成26年度に強化指定されている運動部のほか、推薦基準及び下記に該当する競技を1部推薦することができる。

なお、国民体育大会正式競技のうち、県高等学校体育連盟に加盟していない競技については、競技団体が直接、競技力向上対策本部に推薦を行う。

推薦にあたっては、平成27年度以降も強化の中心となることが期待できる運動部について、各競技専門部をはじめ、該当学校長、競技団体とも協議を行うこととする。

〔追加推薦競技の考え方〕

平成27年度に、高等学校運動部として十分な活動状況・活動人数等確保できる運動部があり、次の条件に該当する競技とする。

- (1) 平成26年度「強化指定されていない競技」
  - ① 今後、全国大会等で活躍が期待できる競技
  - ② 平成28年の国民体育大会で新たに正式競技となる競技
  - ③ これまで休止状態にあった競技
- (2) 平成26年度「強化指定した競技」の中で、過去3年間において複数部が全国大会等において入賞の実績（国民体育大会での選抜チーム含む）があり、今後も全国大会等で活躍が期待でき、複数部の指定が必要な競技。
  - ※ 全国大会・・・全国高等学校総合体育大会、国民体育大会、全国高等学校選抜大会・選手権大会。実施されていない競技については、同等の全国大会とする。

### 4 高等学校硬式野球特別指定運動部の推薦について

硬式野球競技の強化指定運動部については、県高等学校野球連盟が平成27年度に活躍が期待できる運動部1部を推薦することができる。

## 平成27年度高等学校強化指定運動部(案) (31校65部)

審議事項⑦-3

競技名	男子	女子
陸上競技	四日市工業 宇治山田商業	宇治山田商業 松阪商業
陸上競技(駅伝)	伊賀白鳳	四日市商業
水泳(競泳)	尾鷲 津田学園	津田学園 -
水泳(飛込)	-	-
水泳(水球)	四日市中央工業 稲生	- -
水泳(シンクロイストスイミング)	-	-
サッカー	四日市中央工業	三重
テニス	四日市工業	四日市商業
ボート	津	-
ホッケー	-	-
ボクシング	久居	-
バレーボール	松阪工業	津商業
体操(競技)	暁	暁
体操(新体操)	-	名張
バスケットボール	四日市工業	四日市商業
レスリング	いなべ総合学園 朝明	- -
セーリング	津工業	-
ウェイトリフティング	四日市工業 四日市中央工業	亀山 -
ハンドボール	四日市工業	四日市商業
自転車	朝明	-
ソフトテニス	三重	三重
卓球	白子	白子
軟式野球	高田	-
相撲	宇治山田商業	-
馬術	高田	
フェンシング	津東	津東
柔道	四日市中央工業	名張
ソフトボール	津西	伊勢学園
バドミントン	暁	皇學館
弓道	松阪工業	伊勢学園
ライフル射撃	久居	久居
剣道	三重	鈴鹿
ラグビーフットボール	朝明	-
山岳	-	-
カヌー	桑名西	-
アーチェリー	海星	四日市四郷
空手道	-	川越
銃剣道	皇学館	-
クレール射撃	-	-
なぎなた	-	稲生
ボウリング	津田学園	津田学園
ゴルフ	津田学園	津田学園
スケート	-	-
アイスホッケー	-	-
スキー	-	-

平成27年度高等学校硬式野球特別指定運動部(1校1部)

硬式野球	(県高校野球連盟より推薦)	-
------	---------------	---

高校生H30インターハイ強化事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【10,000千円】

1 目的

平成30年度全国高等学校総合体育大会に向け、本県選手及び高等学校運動部の活躍を目的として、県内のトップレベルの高等学校運動部及び選手の強化と、県内中学校と連携した選手育成を行う。

2 対象

全国高等学校総合体育大会の実施競技である県高等学校体育連盟所属の競技専門部

3 事業内容

(1) 高等学校合同強化練習会（20競技専門部程度）

各高体連競技専門部の指導者及び県内ベスト4レベルのチーム等を対象として強化練習会を開催する。

強化練習会には、全国トップレベルのチーム、及び指導者を招へいすることができる。

(2) 中学校・高等学校合同練習会（10競技専門部程度）

県内でトップレベルの中学生選手と、県内トップレベルの高校生選手との合同練習会を開催する。

4 補助対象

講師報償費、トップチーム旅費、参加指導者旅費、会場使用料、消耗品費とする。

5 その他

実施する競技専門部の決定については、委託事業者が三重県競技力向上対策本部と協議のうえ選定・実施を行う。



高校生トップアスリート研修事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【1, 298千円】

1 目的

国内外の大会において入賞以上の成績を残した高校生に対し、スポーツ医・科学をはじめとする研修を通じて、日本のトップアスリートを目指すうえで必要な資質向上を図る。

また、本県代表選手としての自覚を促し、本県競技スポーツを牽引するという意識の醸成を図る。

2 対象

全国大会等で活躍する高校生選手及びその指導者を対象とする。

3 実施内容

(1) 平成27年度に活躍した選手、指導者を選考・指定したうえで、トップアスリートに必要な知識や技能の獲得を目的とした研修会を開催する。

【参加選手及び指導者の選考基準】

- ・ 全国高等学校総合体育大会、国民体育大会、全国高校選抜・選手権大会の個人種目において3位以内の成績を収めた選手及び指導者。
- ・ 全国高等学校総合体育大会、国民体育大会、全国高校選抜・選手権大会の団体種目において、ベスト8以内の成績を収めたチームの代表選手及び指導者。
- ・ 高校2年生以下で、今後全国・国際大会で活躍が期待される選手及び指導者。
- ・ その他、上記に準ずる選手及び指導者。

(2) 研修会では、選手間の交流を図るとともに、本県代表選手としての自覚を促すプログラムを実施する。

(3) 指導者においても、競技の枠を越えた交流を図り、資質向上に資するプログラムを実施する。

トップジュニア育成事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【3,000千円】

1 目的

県民の皆さんからの寄附金を財源として、全国大会等で優秀な成績を収め、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待されるジュニア選手を対象に、強化活動を支援することにより、選手の育成・強化を図る。

2 対象

将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生及び高校生とする。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

対策本部長（知事）は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生及び高校生を強化指定する。

(2) 強化活動の支援

強化指定選手に対しては、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、県外遠征等の旅費、コーチ招へいに係る報償費・旅費を支援する。

4 年間計画

4月から随時	寄附金の募集
7月	平成27年度強化指定選手の推薦・選定
8月上旬	平成27年度強化指定選手の決定
指定日	強化活動の支援

## トップジュニア育成事業に係る「チームみえスーパージュニア」指定候補選手推薦要領（案）

### 1 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校および高等学校に在籍する選手とする。

### 2 推薦基準

平成26年度全国大会で優秀な成績を収め、今後も全国大会や国際大会などの大規模な大会において活躍が期待され、次の基準を満たしている選手とする。

- (1) 平成26年度の全国大会\*<sup>1</sup>で優勝、または、国際大会\*<sup>2</sup>で3位入賞以上の実績がある。
- (2) 平成27年度に日本代表や日本選抜チームに選ばれるなど、個人として今後の活躍が期待できる。

※1 全国大会 ① 国民体育大会

② 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック

③ 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜選手権大会

④ ①・②・③と同じ競技レベルと認められる大会

※2 国際大会 ① 世界ジュニア・ユース大会、アジアジュニア・ユース大会

② ①と同じ競技レベルと認められる大会

### 3 推薦方法

- (1) 各競技団体は、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合、三重県競技力向上対策本部に対象となる選手を推薦することができる。
- (2) 県内に競技団体がないオリンピック正式種目のうち、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合は、所属する団体（クラブチーム等）より、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

### 4 その他

指定選手の選考については、各競技団体等の推薦があった選手をもとに、競技実績・活動状況等により、三重県競技力向上対策委員会で行う。

チームみえ国体選手強化事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【42,090千円】

1 目的

第70回国民体育大会において男女総合成績20位台の獲得と総合得点1000点をめざすため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組む。

2 対象

県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

(1) 競技種別ごとに第70回国民体育大会における入賞の可能性を査定したうえで、その可能性に応じて強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。支援期間は国民体育大会までとする。

\*査定は、「みえの競技力2015」、平成26年度における全国・国際スポーツ大会等の結果、ヒアリング等を参考に、強化指定ランク（A：入賞が確実である、B：入賞の可能性が高い、C：入賞の可能性があり、D：入賞の可能性が低い）をつけて行うこととする。

(2) 強化費のうち予備費を確保し、平成27年度に開催される東海ブロック大会、各種全国大会の結果やふるさと選手の起用等により、随時、追加配分を行うこととする。

(3) 支援する経費は、国民体育大会での活躍を目的とした強化練習、強化合宿等のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、消耗品費、医科学スタッフ・技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費とする。

4 年間計画

4月上旬	強化費当初配分
5月以降	強化費追加配分

トップ選手強化事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【49,232千円】

1 目的

各競技団体が年間を通じて強化活動を実施し、選手強化及び競技の普及等、競技力の向上を図る。

2 対象

県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

(1) 各競技団体が取り組む、強化拠点における県内トップレベルの選手を対象とした強化、競技の普及の取組を支援するため、強化活動に必要な経費の一部を支援する。

(2) 配分の方法

① 全体の予算のうち、概ね以下の割合で各競技団体に対し配分を行う。

50% 基礎配分（活動実績に応じた配分）

拠点数と活動規模に応じて算出

40% 競技力配分（競技実績に応じて配分）

過去2年の国民体育大会の各得点数に応じて算出

10% 普及配分（競技人口が少ない競技に対する配分）

競技人口が200名以下の競技団体及び「国民体育大会における2020年オリンピック対策・実行計画」正式競技に対し配分

各配分の集計結果が前年度実績と比べて著しく変動する団体については、一定の活動量を保障するため、所要の調整を行う。

② 各競技の配分の調整については、各競技団体の強化拠点における育成活動の実績、平成26年度中学校・高等学校の全国大会の実績、「みえの競技力2015」、必要に応じたヒアリング等により行う。

③ 競技団体への配分については、対策本部と協議のうえ、委託事業者において行う。

(3) 各競技団体に対する配分額等の決定後、県体育協会及び対策本部と連携して競技団体への通知及び活動に対する助言を行う。

(4) 支援する経費は、強化練習、強化合宿等に参加する選手、指導者の宿泊費、指導者の報償費、医科学スタッフ・技術指導スタッフ等の経費、施設使用料、消耗品費等とする。

女性アスリートサポート事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【1,875千円】

1 目的

女性アスリートが抱える諸課題について実態を把握するとともに、継続して競技に取り組むための環境づくりに関する調査・研究を行う。

また、平成28年以降の国民体育大会から正式競技として導入される女子の競技・種目への対応を図る。

2 対象

県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体およびその団体に所属する女性アスリート、指導者等とする。（新たに正式競技として導入される競技を含む）

3 実施内容

- （1）女性アスリート及び指導者の研修会を開催し、女性アスリートが抱える諸課題について実態を把握するとともに、継続して競技に取り組むための調査・研究を行う。
- （2）県産婦人科医会など関係団体と連携し、女性アスリートが抱える諸課題について実態を把握するとともに、助言を行えるよう相談窓口等によりサポートを図る。
- （3）平成28年以降の国民体育大会から新たに正式競技として導入される女子の競技・種目の競技人口拡大を図るため、体験会を実施する。

4 年間計画

5月～6月	研修会の開催
8月～9月	相談窓口等の設置
10月～2月	体験会の実施
（年間）	女性アスリートのサポート等に係る調査・研究及び情報提供

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【15,434千円】

1 目的

平成33年に本県で開催する国民体育大会において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すため、第70回国民体育大会での活躍が期待される大学運動部、企業・クラブチーム等の指定を行い、成年選手の重点的な競技力向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技である県内の大学運動部、企業・クラブチーム等とする。

3 指定期間

平成27年4月から平成28年3月までの期間とする。

4 強化指定チームの指定

(1) 強化指定候補チームの選出

【A強化指定】

全日本選手権大会、全日本大学選手権大会等において、過去3年以内に次の基準を満たし、本年度も同様の大会で活躍が期待できるチームについては、所属競技団体と協議を行い、選出する。

また、第70回国民体育大会において活躍が期待できるチームについても、所属競技団体と協議を行い、選出する。

〔基準〕 ① 団体戦で、ベスト8以上の成績を収めている。

② 個人戦で、複数人が3位以上の成績を収めている。

【B強化指定】

平成33年に本県で開催する国民体育大会での活躍が期待される成年種別のチーム、及び国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチームについては、推薦要領に従い、各競技団体からの推薦・協議のうえ選出する。

(2) 強化指定運動部・チームの決定

選出されたチームについては、競技力向上対策委員会において検討・決定する。

5 実施内容

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費に関しては、予算の範囲内で支援を行う。

6 年間計画

5月 指定証交付

随時 強化活動支援

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業の  
B強化指定に係る推薦要領（案）

1 目的

平成33年に本県で開催する国民体育大会での活躍が期待される成年種別のチームを指定し、強化活動の支援を行うことで、成年選手の中長期的な競技力向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技である県内の大学運動部、企業・クラブチーム等とする。

3 実施期間

選考結果及び助成金額の通知日～平成28年3月31日

4 対象経費

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費に関しては、予算の範囲内で支援を行う。

5 推薦基準

(1) 平成33年に本県で開催する国民体育大会での活躍が期待されるチームで、次の基準をすべて満たしていることとする。

○平成26年度に全国大会\*に出場、もしくは出場した選手がおり、平成27年度も同等の活躍が期待できる。

○全国大会での優秀な競技実績もしくは指導実績を有する指導者がおり、選手の勧誘・強化に積極的に取り組んでいる。

○強化活動拠点が存在する。

\*全国大会 ① 全日本選手権大会

② 全日本学生選手権大会

③ ①・②と同じ競技レベルと認められる大会

(2) 国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチームで、次の基準をすべて満たしていることとする。

○国民体育大会第36回東海ブロック大会に出場する。

○指導者が存在する。

○強化活動拠点が存在する。

6 推薦方法

競技団体は、推薦基準を満たしているチームが存在する際は、別添推薦書様式に必要事項を記入し、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

7 選考方法

三重県競技力向上対策本部は、各競技団体より推薦を受けた強化指定候補チームについて、推薦書・ヒアリング等をもとに競技実績、活動状況等を調査し、選考する。



平成27年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る強化指定候補チーム（案）

## 【A強化指定】

	チーム名	競技名
1	伊賀FCくノ一	サッカー
2	三重バイオレットアイリス	ハンドボール
3	NTN陸上競技部	陸上競技
4	デンソー女子陸上長距離部	陸上競技
5	相好体操クラブ	体操
6	エクセディ卓球部	卓球
7	北勢ライディングファーム	馬術
8	三重県教員	相撲
9	名鉄乗馬クラブ・クレイン東海	馬術
10	三重県警察（射撃）	ライフル射撃
11	三重なぎなたチーム	なぎなた

スポーツ指導員配置事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【11,224千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍する現役の成年選手を、年間を通して指導現場に派遣することで、ジュニア・少年選手の競技力の向上を図るとともに、競技力向上の中核を担う指導者の資質向上を図る。

2 対象

最新の指導理論や指導方法を有し、将来本県においてジュニア・少年選手の指導者としての活躍が期待される、全国・国際スポーツ大会で活躍する現役の成年選手とする。

3 実施内容

- (1) 全国・国際スポーツ大会等において優れた実績を収めている現役の成年選手を選考・指定する。
- (2) 指定するスポーツ指導員は、3名とする。
- (3) スポーツ指導員は、当該競技団体の競技力向上のための指導にあたる。
- (4) スポーツ指導員に対しては、指導に参加する旅費の経費を予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

- |    |                 |
|----|-----------------|
| 4月 | スポーツ指導員との協定書の締結 |
| 随時 | 各競技団体への派遣       |

トップアスリート就職支援事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【1,014千円】

1 目的

平成33年に本県で開催する国民体育大会での天皇杯・皇后杯の獲得を目指すとともに、大会終了後も安定した競技力を確保するため、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートの就職支援を行い、成年選手の競技力向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技、及び今後、正式競技となることが決定している競技に取り組んでいる選手及び指導者とする。

3 実施内容

- (1) 県内の企業や事業所等に対し、本県で開催する国民体育大会に向けた成年選手強化の取組に係るPRや説明を行い、トップアスリートの採用を検討する企業や事業所等の開拓を行う。
- (2) 競技団体と調整を行ったうえで、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートに対し、県内の企業や事業所等を紹介し、本県への就職に向けた勧誘活動を行う。
- (3) トップアスリートと企業や事業所等のマッチングが図れるよう、調整を行う。

4 年間計画

随時 企業や事業所等の開拓  
本県への就職に向けた勧誘活動の実施  
マッチングの調整

チームみえ指導者研修事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【561千円】

1 目的

三重県代表チームの監督、コーチ等スタッフに対し、最新の指導理論、スポーツ医・科学に基づく知識等を習得するための研修会を開催する。

また、短期的、中・長期的な視点に立った本県競技力の向上について、共通理解を深めるとともに、本県指導者の中核を担うための意識の醸成を図る。

2 対象

- ・各競技団体の本県代表チームの監督や選手選考に関わる指導者。
- ・競技者として本県で活動している成年選手。
- ・その他、競技団体が認めた者。

3 実施内容

- (1) 最新の指導理論、スポーツ医・科学等、本県競技力の向上のために必要な内容の研修会を開催する。
- (2) 短期的、中・長期的な視点に立った本県競技力の向上について指導者間で情報交換を行い、国民体育大会をはじめとする国内外の大会で活躍する選手の育成を促すものとする。
- (3) 研修会を通じて、本県指導者の中核を担うという意識の醸成を図るものとする。
- (4) 参加者に対し、予算の範囲内で旅費を支出する。

強化指定運動部、チーム指導者研修事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【2,060千円】

1 目的

平成27年度に強化指定されている運動部、チームの指導者に対し研修を実施することで、専門競技の異なる指導者との連携を図るとともに、指導者としての資質の向上を図る。

2 対象

平成27年度に強化指定されている運動部、チームの指導者

3 実施内容

- (1) 本事業においては、年3回実施する県内研修会において、最新の指導理論や指導方法を習得するとともに、専門競技の異なる指導者との連携を図り、本県競技力向上の中核を担う指導者としての意識の醸成を図る。
- (2) 指定する指導者のうち、希望する指導者には、中央競技団体や国立スポーツ科学センター等が実施する県外の研修会、セミナー等への参加を支援する。県外研修に関しては、原則1人1回とする。
- (3) 指定する指導者には、県内研修及び県外研修会に参加する旅費、宿泊費の経費を予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

5月	指定証交付、第1回県内研修
7～8月	第2回県内研修
随時	県外研修
12～2月	第3回県内研修

公認スポーツ指導者養成事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【450千円】

1 目的

国民体育大会の監督となるために必要な（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者資格の取得を積極的に促進し、資格取得のための支援を行う。

2 対象

- （1）国民体育大会の正式競技である県内競技団体から推薦を受け、国民体育大会の監督資格に必要な（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者資格を取得した者とする。
- （2）期間は、平成27年4月1日から平成28年3月までの間に資格取得を完了した者とする。

3 実施内容

- （1）（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者の資格を取得するために、必要な経費の一部を補助する。
- （2）対象となる指導者の種類
  - ・指導員
  - ・上級指導員
  - ・コーチ
  - ・上級コーチ
  - ・教師
  - ・上級教師
- （3）補助対象とする経費については、資格取得のための共通科目及び専門科目受講にかかる経費とし、上限を1万5千円とする。
- （4）各競技団体からの推薦によって資格取得した者に限る。1競技団体につき、上限2名までとする。
- （5）資格更新のための研修は対象外とする。

4 年間計画

4月 実施要項配布及び事業の実施

特別コーチ派遣事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【2,550千円】

1 目的

第70回国民体育大会において、入賞の可能性がある競技団体に対し、全国・国際スポーツ大会で活躍した選手、もしくは優れた指導実績を持つ指導者を派遣することで、全国大会での入賞につなげるとともに、指導者の資質の向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技とする。

3 実施内容

- (1) 第70回国民体育大会における入賞の可能性があり、特別コーチの派遣を希望する競技団体を対象に、対策本部は、競技力の状況及び本事業における計画等を総合的に判断したうえで、派遣する競技団体を選考する。
- (2) 実施競技団体は、5～7競技団体とする。
- (3) 実施競技団体は、特別コーチによる強化練習会や合宿等の計画を立て、実施する。
- (4) 特別コーチに対しては、旅費・報償費の経費を予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

4月	実施要項配布
5月	特別コーチ派遣競技団体決定
5～3月	特別コーチ派遣

環境整備補助事業 実施方針（案）  
（県スポーツ推進局実施事業）

平成27年度当初予算【7,000千円】

1 目的

競技の普及や競技力の向上を図るため、必要とする競技団体に対し、強化活動等に必要な備品等の購入に補助を行う。

2 対象

県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会正式競技である競技団体で、特に高額で特殊用具等が必要であると認められる競技団体とする。

3 実施内容

- （1）事業を希望する競技団体について、競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査、及び競技団体の財務状況等を総合的に精査し、予算の範囲内で補助金を交付する競技団体を決定する。
- （2）予算の範囲内で補助を行う。
- （3）競技団体は、備品台帳に当該備品を記載し、適切な管理を行うものとする。
- （4）県は、本事業の実施状況について、実態調査を行うものとする。
- （5）補助については、同一年度に1団体1回限りとする。

4 年間計画

4月	募集
5月	申請
6月	交付決定、備品購入
随時	状況報告
3月	実績報告



医・科学サポート事業 実施方針（案）  
（委託事業）

平成27年度当初予算【4,583千円】

1 目的

競技団体が実施する指導者講習会、強化練習会、強化合宿等（以下、「強化活動」という。）に、体力トレーニングやスポーツ栄養学、スポーツ心理学、コンディショニングなどの知識をもつ専門家（以下、「専門家」という。）を派遣し、スポーツ医・科学を取り入れた強化策の推進を図る。

2 対象

県体協加盟団体で国民体育大会正式種目のうち、7競技団体程度とする。

3 実施内容

- （1）競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動において、スポーツ医・科学の専門家を年間5回程度招へいし、最新の手法や考え方による指導・助言を受け、選手の競技力向上、指導者の指導力の向上を図る。
- （2）事業を希望する競技団体について、公募するものとし、競技特性、これまでのスポーツ医・科学の導入状況、及びヒアリングの内容等を総合的に精査し、実施する競技団体を決定する。
- （3）競技団体がスポーツ医・科学の手法や考え方を活かした強化活動の推進を図る。
- （4）経費は、専門家の旅費、宿泊費、報償費とする。
- （5）競技団体の選定については、三重県競技力向上対策本部と協議のうえ、委託事業者において配分を行う。

4 年間計画

- |    |          |
|----|----------|
| 4月 | 募集       |
| 5月 | 派遣競技団体決定 |
| 随時 | 事業実施     |
| 3月 | 実績報告     |

みえのアスリート応援・発信事業 実施方針（案）  
（対策本部実施事業）

平成27年度当初予算【3,633千円】

1 目的

本県代表として活躍しているアスリートを幅広い広報等により、情報発信を行い、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成する。

2 実施内容

（1）広報紙の作成

県内で活躍しているアスリートを幅広く情報発信できるよう、広報紙の作成を行う。年2回程度発行を行う。

〔配布先〕

- ・県内の小中高等学校の児童生徒
- ・県内のスポーツ関連施設
- ・イベント等

（2）チームみえ啓発物の作成

県代表選手の活躍を啓発できるよう、チームみえのロゴ等を使用した啓発物の作成を行う。

- ・県代表選手及びスタッフポロシャツ
- ・応援用グッズ等

3 年間計画

- |      |                    |
|------|--------------------|
| 5月   | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |
| 8～9月 | チームみえ啓発グッズ等作成      |
| 10月  | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |

# 協議事項



## 競技力向上に関する事業の効果的な実施について

三重県競技力向上対策本部では、平成33年の国民体育大会に向けて、計画的・総合的に取組を進めていくなかで、平成27年度は国民体育大会男女総合成績20位台、総合得点1,000点の獲得に向け、各委員会での意見を参考にしながら「平成27年度競技力向上対策事業」に取り組むこととしています。

### 1 ジュニア・少年選手の育成・強化について

平成26年度にチームみえジュニアの指定を行う等、県全体でジュニア選手（小中学生）から高校生（少年）選手の育成に取り組んでいるなかで、効果的に進めるための取組について

### 2 成年選手の強化について

多くの意見や課題が挙げられていた、トップレベルの選手の就職支援について、成年選手強化が安定的に図られるための「トップアスリート就職支援事業」の取組の視点について

### 3 女性アスリートに対する取組について

本県の女子の競技力は低迷しており、特に成年女子の入賞は非常に少ない状況です。女子選手が競技を継続することが難しくなる現状がある等の課題に対し、女性アスリートサポート事業に取り組むためのポイントについて

- (1) 女子選手が競技を継続するための課題について
- (2) 女子選手の指導者の意識向上について
- (3) 女子選手の医・科学サポートについて



# 參考資料





## 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：21名、計：23名)

【委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	世古 定

【副委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会専務理事	東地 隆司

【委員：20名】敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
県関係	三重県教育委員会事務局次長	長谷川 耕一
市町関係	伊勢市教育委員会事務局スポーツ課長	濱口 昌大
	東員町教育委員会事務局社会教育課長	伊藤 英敏
産業・経済関係	株式会社 エクセディ 執行役員U人事総務部長	山村 佳弘
	株式会社デンソー大安製作所長	堀 誠
	本田技研工業株式会社四輪生産統括部鈴鹿製作所 総務ブロック ブロックリーダー	柳田 雅彦
	相好株式会社代表取締役	山本 将之
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会強化・普及委員会委員長	沖田 稔
	三重県中学校体育連盟理事長	野田 朋憲
	三重県高等学校体育連盟理事長	堀越 英範
	鈴鹿市立神戸中学校 剣道部顧問	北林 奈津子
	県立宇治山田商業高等学校 陸上競技部顧問	小池 弘文
	県立朝明高等学校 レスリング部顧問	橋爪 幸彦
	県立四日市中央工業高等学校 サッカー部顧問	樋口 士郎
	三重高等学校 ソフトテニス部顧問	神崎 公宏
	皇學館大学 柔道部監督	佐藤 武尊
	三重バイオレットアイリス監督	池本 聡
	三重県水泳連盟強化責任者(競泳)	八田 知宏
	三重県ボート協会強化責任者	丸山 亮太
学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院院長	加藤 公
	三重大学教育学部教授	杉田 正明